

秋田焼山の火山活動解説資料（平成27年7月）

仙台管区气象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①）

東北地方整備局が山頂の西に設置している焼山監視カメラによる観測では、叫沢（さけびさわ）源頭部の噴気は噴気孔上 40m以下で経過しました。湯沼の噴気は観測されず、噴気活動は低調に経過しました。

・地震や微動の発生状況（図2-②）

火山性地震は少ない状態で経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図3、図5）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図1 秋田焼山 湯沼と叫沢源頭部の噴気の状況（7月6日08時30分頃）

- ・山頂の西約2kmに設置されている焼山監視カメラ（東北地方整備局）の映像です。
- ・赤丸実線で囲んだ部分が、叫沢源頭部の白色噴気で高さ40mです。
- ・白丸実線で囲んだ部分は、レンズに付着した汚れです。

この火山活動解説資料は、仙台管区气象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成27年8月分）は平成27年9月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。

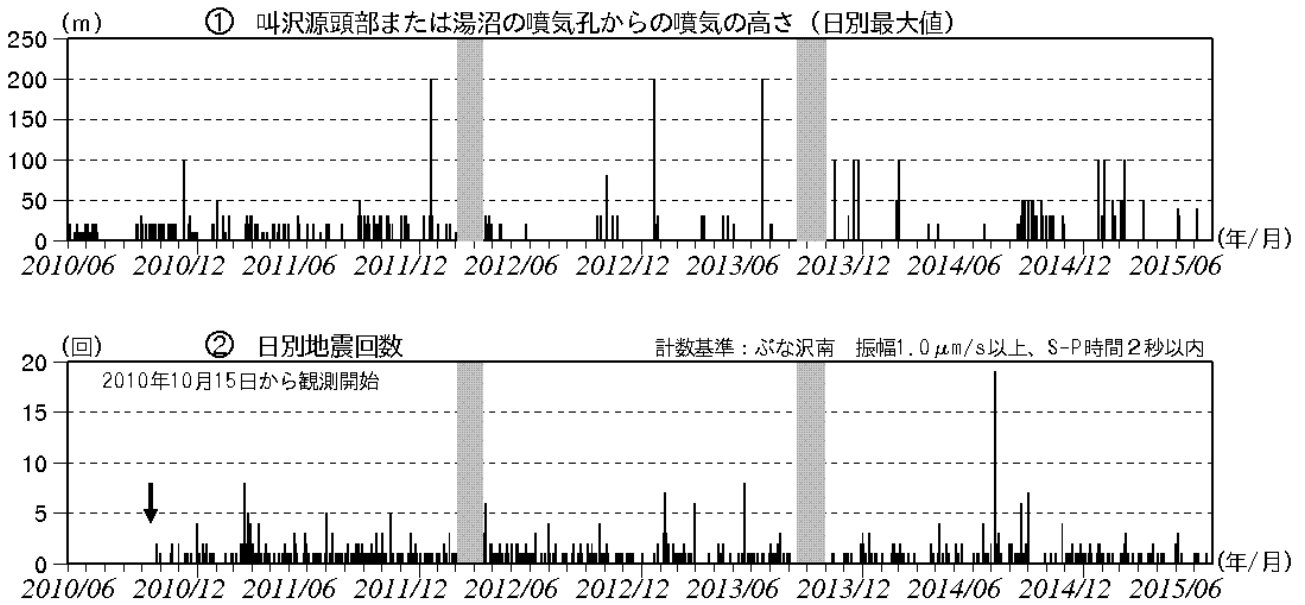


図2 秋田焼山 火山活動経過図（2010年6月～2015年7月）

・ 図の灰色部分は欠測を示します。

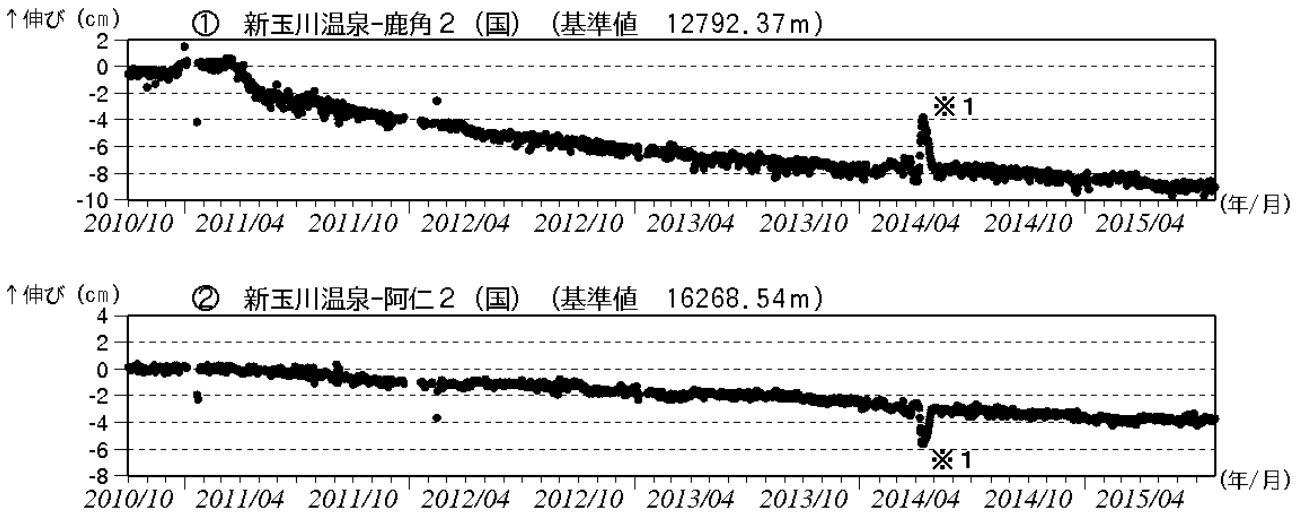


図3 秋田焼山 GNSS¹⁾ 基線長変化図（2010年10月～2015年7月）

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

- ・ 2011年3月11日以降の縮みの傾向は、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」による影響であり、火山活動によるものではないと考えられます。
- ・ 「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・ ①～②は図5のGNSS基線①～②に対応しています。
- ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・ 各基線の基準値は補正等により変更する場合があります。

(国)：国土地理院

※1 2014年3月から4月にかけて、新玉川温泉観測点では原因不明の変動が観測されていますが、火山活動に起因するものではありません。

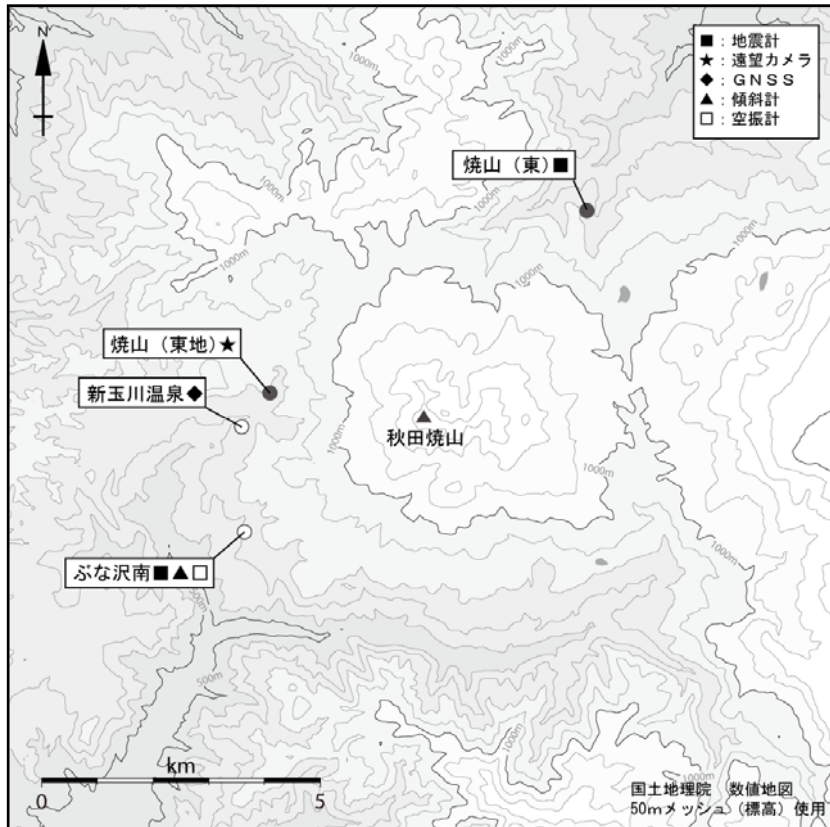


図4 秋田焼山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （東地）：東北地方整備局 （東）：東北大学

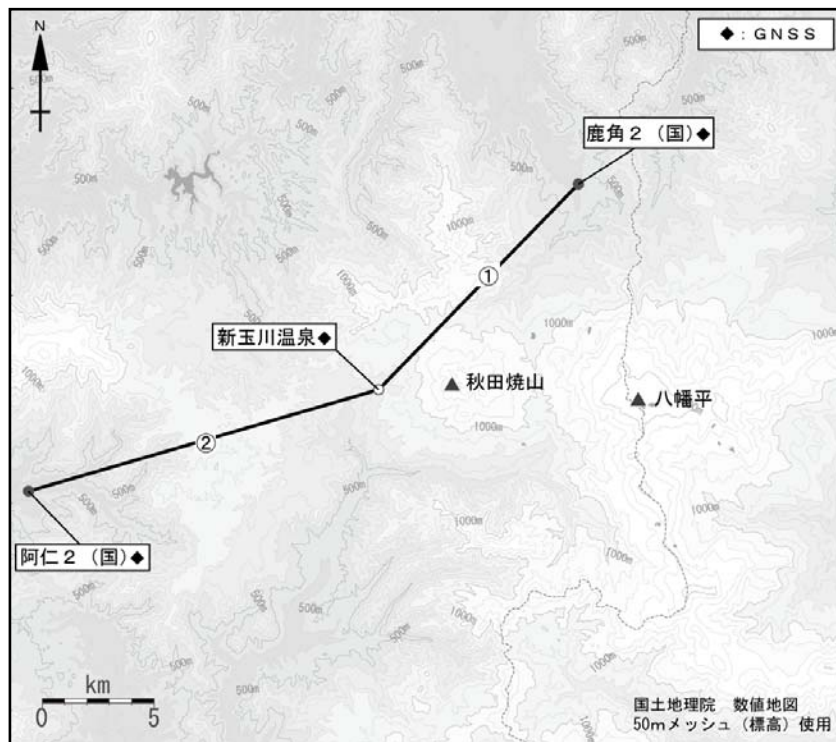


図5 秋田焼山 GNSS 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （国）：国土地理院